

こくてつよさんせんかいつう はなし 国鉄予讃線開通の話

明治四十二年ねんごろのことです。四国縦貫鉄道建設のため、時の鉄道院総裁後藤通信大臣が、四国を廻りました。随員約二十人程にんほどでした。和田と箕浦両小学校の生徒は、手に手に日の丸の旗を持って県境まで出迎えに行き、万歳を唱えました。後藤さんの

人力車は二人曳で、空気の入ったゴム車、他の人は木の輪の人力車でした。箕浦駅の近くの山に

箕浦の人達が薙で歓迎の文字を山に書いてありました。そのころ汽車は高松、多度津、琴平間に

走っておりまして。大正四年に観音寺まで、大正五年四月、川之江まで開通しました。そのころ

の交通機関は、陸は人力車、馬車、荷馬車で、人が荷車を引いて物を運んでいました。郵便物は午前

零時と午後零時の二回、和田浜郵便局が、車で川之江方面へ、川之江郵便局は和田浜郵便局へ

向かって車を走らせ、途中で出合い車を交換して引きかえすということでした。

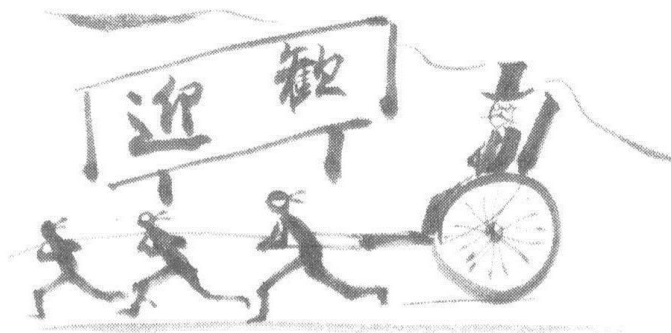
尚、その頃の物の値段をあらまし書いてみます。

葉書

一錢五厘

封筒

三錢



豆腐 とうふ

二銭 せん

油揚 あぶらあげ

五厘 りん

こんにやく

八厘 りん

大きさは現在より大きい。

米 こめ

一石 こく

十三円五十銭 えん

大正五年正月 たいしょう ねんしょうがつ

一石 こく

十二円五十銭 えん

大正六年正月 たいしょう ねんしょうがつ

学生皮靴 がくせいかわぐつ

二円五十銭 えん

マッチ

小箱十個入 二銭 こばこ こいり せん